

文学

# 大家の訳や註と対決する姿勢

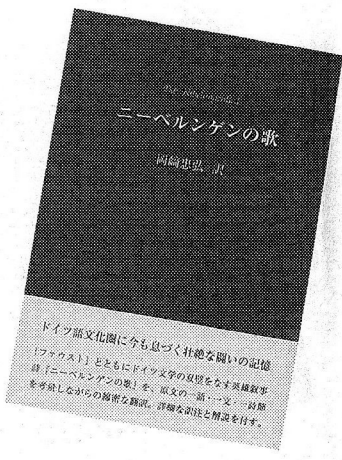
世界文学の古典として、『ニーベルングの歌』は  
永く読み継がれるであろう

寺田龍男

岡崎忠弘 訳

## ▶ニーベルングの歌

5・15刊 A 5判1046頁 本体5800円  
鳥影社



ドイツ語文化圏に今も息づく社会闘いの記憶  
『フアウスト』とともにドイツ文学の歴史をなす英雄叙事  
詩『ニーベルングの歌』を、原文の「第一」を、対訳  
を併記しながらの密着な訳註、詳細な訳註と解説を行う。

ブルグント国の王グンテル  
それが逆に彼の勇猛心をかき  
はニーアルラントの王子で無  
立て、敢然と死地へ赴く決意  
双の英雄ジーフリートの助けを  
を固める。エッツェルの宮廷  
受けて統治を安定させ、また  
では一挙に緊張が高まり、戦  
アイスランドの女王ブリュン  
いの火ふたが切られる。殺戮  
ヒルトを娶ることにも成功す  
戦の末、クリエムヒルトはハ  
る。しかし妃となった彼女と  
ゲネの首を刎ねて復讐を果た  
の諍いから、王妹クリエムヒ  
すが、あまりの残酷さゆえ彼  
ルトは結婚したジーフリートを  
女自身も討たれて物語は終え  
一族の忠臣ハゲネにより暗殺  
る。「これがニーベルング  
される。寡婦となったクリエ  
のさだめでありませう」(68  
ムヒルトは亡夫への想いを秘  
4ページ)。  
13世紀初頭に成立した英雄  
エルと再婚し、莫大な富と権  
叙事詩『ニーベルングの歌』  
力を手に入れる。やがて彼女  
は日本でも早くから知られて  
は夫を動かしたブルグント族を  
いる。「運命と知りつつも名  
招く。危険を察知したハゲネ  
譽を守るためにはこれと戦  
は反対するが、義弟を死なせ  
い、死ぬことも辞さない」と  
て良心の呵責があるグンテル  
いう悲劇的運命観は、戦前の  
王は招きに応じて、旅の途中  
人々に強い感動を与えたとい  
で得た水の精の予言により、  
われる。2009年には主要  
ハゲネはもはや生きて帰るこ  
とができないと悟る。しかし  
の「世界の記憶」に認定され

た。ゲーテの『ファウスト』  
と並びドイツ文学を代表する  
作品と評する人も少なくない。  
この作品にはすでに雪山俊  
夫訳(1939/42年)、服部正巳訳(初版1944年)、  
相良守峯訳(初版1952年)、  
石川栄作訳(2011年)、  
石川訳のみ写本Cに、  
他は写本Bによる)。  
訳者岡崎氏は早い時期から既  
存の訳業を見直す必要性を感  
じていたのだらう。すでに1  
989年、『ニーベルングの  
歌 前編(1-114)』  
を深水社から上梓している。  
だが氏の本格的な取り組みは  
ここから始まったと推測す  
る。古典とされたBracken  
訳(1970/71年)に続き、  
ドイツ語圏ではGrosse旧訳  
(de Boor版1967年)、  
Schulze訳(2005年)、  
写本C)・Reichart注釈(2  
007年)、Grosse新訳  
(Schulze版2010年)、  
Heinze訳(2013年)  
など最新の研究成果による翻  
訳や注釈が次々と刊行された  
からである。訳者はその都度  
完成していた翻訳を推敲し続  
けたにちがいない。その結果  
約700ページの本文に対し  
て註が約260ページ、解説  
も約100ページを占めて  
『広辞苑』のような外観を呈  
する訳業が完成したのであ  
る。  
訳者の真骨頂は、これら大  
家の訳や註を鵜呑みにせず、  
常にそれらと対決する姿勢に  
ある。原典は現代から800  
年も遡る言語で書かれ、しか  
も韻文である。ドイツでも訳  
者により解釈は相違する。だ  
が作品を知悉する岡崎氏は、  
先行研究のすべてと四つに組  
んだ。註では繰り返して、複  
数の可能性の中からこの解釈  
を探る、と宣言する。当然な  
から訳者は自身の判断を説明  
する責任を負う。複数の解釈  
から一つを選択する場合はも  
ちろん、それらに首肯せず独  
自の解釈を提示する場合も必  
ずその根拠を示している。行  
間からにじみ出る訳者の自信  
は、そうした努力の積み重ね  
によるのである。原文を理  
解しない読者にも、判断理由  
を明記する姿勢は清々しく映  
るにちがいない。

岡崎氏が力を入れている点  
はいくつもある。たとえばグ  
ンテル王の妹クリエムヒルト  
と妃ブリュンヒルトの軋轢に  
関しては、妃の傷ついたブラ  
イドや嫉妬心について、心の  
裏にまで分け入る解説を施し  
ている。ジーフリートに対する  
ハゲネの心理が屈折してゆく  
過程の描写も納得がゆく。本  
文だけを読んでも一通りの理  
解はできよう。だが、註には  
『ニーベルングの歌』は  
複数の口承伝説が文字文化化  
されたため、伝承を接続する  
際いくつかの不整合が生じた  
とされる。しかし訳者は作品  
の全体を見通した上で、遠く  
離れた表現が実は緊密に結び  
ついている事例を多数明らかに  
している。一見何気ない  
「彼らは」を表わす代名詞の  
彼らとはいったい誰か、「そ  
の時」とは誰が何をした時点  
かなどを明示したことが、作  
品構成における緊密性の高さ  
を証明するという実りを結ん  
だ。先行訳と比べて註の分量  
が飛びぬけて多いのは、まさ  
にそうした実証的考察を行っ  
たからである。それでも解釈  
の困難な記述はある。しかし  
この作品が従来考えられてい  
た以上の熟慮により構成され  
ていることは、読者にも十分  
伝わっている。  
中でも注目すべきは作品  
(写本B)の原文で最後に用  
いられるmot(通常「災い」  
の訳語である。従来の翻訳は  
「厄」「雪山訳」「厄難」(服  
部訳)、「災い」(相良訳)の  
語で、「これぞニーベルング  
の災いである」のように結  
ばれてきた。しかし訳者は冒  
頭で引用したように「やだめ」  
と運命を表わす語を用いる。  
何故そうしたかは註で詳細に  
説明されているので立ち入ら  
ないが、全体を俯瞰した上で  
訳者があえて選んだ表現は今  
いささか唐突な印象を評者も  
受けるが、『ヒテロルフとテ  
イトライフ』(1250年頃)  
頃には、ジーフリートが幼い  
頃エッツェルの宮廷に滞在し  
たという記述がある。『ニー  
ベルングの歌』の方が50年

なお一点の欠補足した。  
1157節(336ページ)  
によると、フン族のエッツェ  
ル王は若いジーフリートと会っ  
たことがある。訳者と同じく  
いささか唐突な印象を評者も  
受けるが、『ヒテロルフとテ  
イトライフ』(1250年頃)  
頃には、ジーフリートが幼い  
頃エッツェルの宮廷に滞在し  
たという記述がある。『ニー  
ベルングの歌』の方が50年

### 芸術

点のみ補足したい。

節(336ページ)、フン族のエツツェ、  
いジーフリトと会っ  
ある。訳者と同じく  
唐突な印象を評者も  
、『レテロルフとデ  
イプ』(1250年  
、ジーフリトが幼い  
エルの宮廷に滞在し  
記述がある。『ニー  
ンの歌』の方が50年

## 芸術

ほど早く成立しているので、  
その記述が後出作品に影響を  
与えた可能性は否定できな  
い。しかし両作品が共通の伝  
承に依拠したことも考えられ  
る。訳者の判断を俟ちたい。

の学校教育でこの作品を取り  
上げる場合、教員はナチス時  
代の政治利用にも必ずふれる  
という。実際この作品は一般  
の人々にかなりネガティブな  
印象を与えていると感じるこ  
とがある。しかし人間関係の  
もつれゆえに国家が衰亡する  
というのは、古今東西に普遍  
的かつ常にアクチュアルな主  
題である。民族・伝統・国民  
的叙事詩といったレッテルで  
印象操作をされる不幸な過去  
はあったが、世界文学の古典  
として、『ニーベルンゲンの  
歌』は永く読み継がれるであ  
ろう。

悲劇的運命観を体現するハ  
ゲネの主君に対する忠誠心に  
はそれなりに人の心をうつも  
のがある、と評者は思う。だ  
がそうしたインパクトの強さ  
ゆえであろう、先の大戦中

『ニーベルンゲンの歌』は国  
家への忠誠心と自己犠牲を厭  
わぬ精神を称揚するためしば  
しば引用された(日本でも戦  
時中上記2種の翻訳が刊行さ  
れている)。現在ドイツ語圏

『ニーベルンゲンの歌』は国  
家への忠誠心と自己犠牲を厭  
わぬ精神を称揚するためしば  
しば引用された(日本でも戦  
時中上記2種の翻訳が刊行さ  
れている)。現在ドイツ語圏

の学校教育でこの作品を取り  
上げる場合、教員はナチス時  
代の政治利用にも必ずふれる  
という。実際この作品は一般  
の人々にかなりネガティブな  
印象を与えていると感じるこ  
とがある。しかし人間関係の  
もつれゆえに国家が衰亡する  
というのは、古今東西に普遍  
的かつ常にアクチュアルな主  
題である。民族・伝統・国民  
的叙事詩といったレッテルで  
印象操作をされる不幸な過去  
はあったが、世界文学の古典  
として、『ニーベルンゲンの  
歌』は永く読み継がれるであ  
ろう。

の学校教育でこの作品を取り  
上げる場合、教員はナチス時  
代の政治利用にも必ずふれる  
という。実際この作品は一般  
の人々にかなりネガティブな  
印象を与えていると感じるこ  
とがある。しかし人間関係の  
もつれゆえに国家が衰亡する  
というのは、古今東西に普遍  
的かつ常にアクチュアルな主  
題である。民族・伝統・国民  
的叙事詩といったレッテルで  
印象操作をされる不幸な過去  
はあったが、世界文学の古典  
として、『ニーベルンゲンの  
歌』は永く読み継がれるであ  
ろう。

の学校教育でこの作品を取り  
上げる場合、教員はナチス時  
代の政治利用にも必ずふれる  
という。実際この作品は一般  
の人々にかなりネガティブな  
印象を与えていると感じるこ  
とがある。しかし人間関係の  
もつれゆえに国家が衰亡する  
というのは、古今東西に普遍  
的かつ常にアクチュアルな主  
題である。民族・伝統・国民  
的叙事詩といったレッテルで  
印象操作をされる不幸な過去  
はあったが、世界文学の古典  
として、『ニーベルンゲンの  
歌』は永く読み継がれるであ  
ろう。